

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 7年 3月 18日

事業所名 放課後等デイサービス れいるd

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	83%	17%	0%	1階の和室を使用するなど活動によって工夫している。 利用人数に応じ各部屋の配置人数を調整している。 個室利用のルール提示をしている。	
	2	職員の配置数は適切である	67%	33%	0%	利用者2名あたり職員1名となるよう配置している。 分業が不十分。	支援人数の配置は基準より多く配置できています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	50%	50%	0%	階段があるので車いす利用の方は将来難しいのではないかなと思う。 玄関の段差や2階への階段の利用時には利用者に注意喚起している。	段差も多く、階段もあるので、危険がないように職員の配置をしたり、回避するための対策を行っています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参加している	100%	0%	0%	スタッフ同士で感じた事や思った事の情報共有を図っていききたい。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%	評価の結果で改善が必要な内容は職員間で話し合っている。	改善がまだ出来ていないものもあるので随時対応していききたいと思います。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83%	17%	0%	ホームページや玄関掲示でアンケート結果を周知している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	67%	33%	0%	外部評価は行っていない。	質の向上のため、外部への依頼か、内部別管轄か、客観的な評価の実施を検討したいと思います。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	研修への参加、事業所内での伝達研修、スペシャルラーニングでの視聴学習を実施している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	67%	33%	0%	アセスメントを取っているが、十分に取れていないと感じる。	計画の作成までの流れを全職員が把握できるよう情報の共有をしていきます。

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50%	50%	0%	標準化されたアセスメントツールが明確ではない。(わかりやすいものを使用した)	児童部門内での検討も視野に入れ、活用を促していきたいと思えます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	他の職員の意見も多数聞き取りし、取り入れている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%		季節や行事を組込み、マンネリ化しないよう工夫しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	83%	17%	0%	個々の動きに合わせてるようにし、楽しみながら取り組めるようにしている。	活動時間の長さ等を考慮して、取組む内容を設定しています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	個別、集団の活動は計画に沿って行えるよう配慮している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	送迎、休みの有無、スケジュール、ヒヤリハットなど朝礼と昼礼で打合せしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	0%	支援開始前打合せ時に、前日の振り返りを行っている。	その日のうちに解決や検討が必要な内容がある場合は必要に応じて対応しています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	67%	33%	0%	適宜、記録は取れている。記録内容が足りていないと感じる時がある。	記録の書き方、記録の活用等も再度確認していきたいと思えます。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%		計画の見直し時期には職員間で会議を開き、内容の検討をしています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	67%	33%	0%	よく分かっていない。読込めていない。	要約されたガイドラインの内容を勉強会等を開催し、全ての職員が理解できる環境を作ります。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	17%	0%	児童発達支援管理責任者が代表で参加している。	今後は、児童の担当職員にも必要に応じて参加を促していきたいと思えます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	83%	17%	0%	送迎時、常に連絡は取りあっているが、情報共有という点でケース会議等もう少し必要ではないかと感じる。	

関係機関 や保護者 との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	33%	67%	0%	看護師の配置が出来ておらず 医ケア児としての受入れは出来ていない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50%	50%	0%	中・高生を対象としているため、保育所等との連携はない。	小学生対象としている事業所からの移行時にコース会議を開き、情報の伝達を受けている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	83%	17%	0%	毎回ではないが、移行前後で会議等を開催している。	会議が行われない時に、相談支援員へ情報を伝えて対応することもありました。可能な限り、情報提供はしていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	50%	50%	0%	研修の内容に応じて参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	17%	33%	50%	設定が難しいかもしれないと感じる。	交流する機会の設定は行っていません。必要に応じて今後検討していけたらと思います。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	33%	50%	17%	良く分からない。	子ども支援部会の放課後等デイサービス連絡会へ、企画内容に応じた職員が参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	送迎や迎えのタイミングで話をすることが出来ている。	
保護者	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	17%	67%	17%	トレーニングは行っていない。 研修への参加をしていきたい。	相談内容にアドバイスさせてもらうことはありますが、トレーニング等の実施は行っていないので、今後、検討していきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	67%	33%	0%	変更があった場合、都度、説明を行っている。	説明が出来る職員が限られているので、誰もが対応できるようにしたいと思います。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	17%	0%	面談の実施や日々の利用時に話を聞き、参考になる情報の提供をしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	33%	17%	今年度の開催は無し。 親子活動として交流会の開催は行った。	親子で参加できる交流会の開催は行っていますが、保護者会等の実施は出来ていなかったためアンケートを取りつつ、開催を検討したいと思います。

者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	17%	0%	要望をいただいた時は、職員で共有し、対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	活動の様子を写真で連絡帳に貼り付け、年間3回の広報を発行している。	インスタグラムの活用ができていないので、発信の仕方を考えていきたいと思います。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	状況に合わせて、方法や手段を考えて対応している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	50%	50%	いずれ何らかのかたちで取組みたい。	地域に開かれた事業運営の方法を思案していきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	50%	50%	0%	マニュアルがあることは理解しているが、周知の方法がわからない。	研修、訓練等がマニュアルに沿って行われていることの周知、閲覧方法も見直していきたいと思います。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	適宜、避難訓練（水害、火災、地震）を実施し実施した内容をミニ広報で周知している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83%	17%	0%	事業所内（スペシャルラーニング）や法人内での研修に参加している。	委員会を主軸に研修の実施、チェックシートを使用しセルフチェックも行っています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	33%	50%	17%	今後、必要に応じてやむを得ず拘束を行う際の記載が必要。	必要な状況になる場合、事業所内で十分に協議していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	83%	17%	0%	個別に提示して間違わないよう確認している。 医師からの指示書は受けていない。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	83%	17%	0%	毎日の振り返りで気付きの内容を話し合っている。	振り返りをしたヒヤリハットを記録に残し、定期的にファイリングしています。